無刊記古活字本　宇治拾遺物語巻一の三冒頭（宮内庁書陵部蔵）

目次

解説……七
凡例……三
宇治拾遺物語　序……一

巻一

三　鬼に瘤取らるる事……五
十二　児の搔餅するに空寝したる事……二
十三　田舎の児桜の散るを見て泣く事……三
十八　利仁芋粥の事……一五

巻二

五　用経荒巻の事……三〇
七　鼻長僧の事……三七
十二　唐に卒都婆血つく事……四二

巻三

一　大太郎盗人の事……四九
二　藤大納言忠家物いふ女放屁の事……五五
四　山伏舟祈り返す事……五六
六　絵仏師良秀家の焼くるを見て悦ぶ事……六〇
十一　藤六の事……六三
十六　雀報恩の事……六四
十七　小野篁広才の事……七四

巻四

四　妹背嶋の事……七六
五　石橋の下の蛇の事……七九

巻五

三　以長物忌の事……八七
五　陪従家綱行綱互ひに謀りたる事……九〇
七　仮名暦あつらへたる事……九五
十　ある僧人の許にて氷魚盗み食ひたる事……九六

巻六

三　留志長者の事……九八
五　観音蛇に化す事……一〇三

巻七

一　五色の鹿の事……一〇九
二　播磨守為家の侍佐多の事……一一四
三　三条中納言水飯の事……一一一
五　長谷寺参籠の男利生にあづかる事……一一四

巻八

三　信濃国の聖の事……一四〇
六　猟師仏を射る事……一五三

巻九

五　恒正が郎等仏供養の事……一五八
八　博打聟入の事……一六四

巻十

一　伴大納言応天門を焼く事……一六八
六　吾妻人生贄をとどむる事……一七六

巻十一

六　蔵人得業猿沢の池の龍の事……一九〇
九　空入水したる僧の事……一九四
十二　出家功徳の事……一九九

巻十二

七　増賀上人三条の宮に参り振舞の事……二〇四
九　穀断の聖露顕の事……二〇八
十一　木こり小童隠題歌の事……二一〇
十九　宗行の郎等虎を射る事……二一一
二十二　陽成院ばけ物の事……二一七

巻十三

五　夢買ふ人の事……二二〇
十三　清滝川聖の事……二二三

巻十四

二　寛朝僧正勇力の事……二二八
七　北面の女雑仕六の事……二三二

巻十五

四　門部府生海賊射返す事……二三五
十一　後の千金の事……二三九

写真――長尾　宏
志村　ひろ子

治二年整版本　和名抄→和名類聚抄　名義抄→類聚名義抄（観智院本）　字類抄→伊呂波字類抄　私註→宇治拾遺物語私註　古典全書→日本古典全書宇治拾遺物語　古典大系→日本古典文学大系宇治拾遺物語　古典全集→日本古典文学全集宇治拾遺物語　全註解→宇治拾遺物語打聞集全註解

一、本書はもっぱら先学諸氏の注釈・研究に負って成ったものである。武蔵野書院の長尾宏氏には本書の刊行に際し、多大の御協力を得、また渡辺充子氏には本文書写の御協力を得た。深く感謝申し上げる。

宇治拾遺物語　序

世に宇治大納言物語といふ物あり。この大納言は隆国といふ人なり。西宮殿の孫、俊賢大納言の第二の男なり。年たかうなりては、暑さをわびて、暇を申して、五月より八月までは、平等院一切経蔵の南の山ぎはに、南泉房といふ所に籠り居られけり。さて宇治大納言とは聞えけり。

通釈　世間に宇治大納言物語というものがある。この大納言は隆国という人である。西宮殿の孫にあたり、俊賢大納言の次男である。年とってからは暑さを厭い、休暇を願い出て、五月から八月までは平等院の一切経蔵の南の山ぎわに、南泉房という所に籠っておられた。そこで宇治大納言と申したのである。

語釈・文法　(一)十一世紀後半に成立したと推定される説話集。作者は源隆国。『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』と密接な関係があり、それらの説話の素材となっていると考えられるが、現在は散佚したらしく、原形は不明である。(二)太政官の次官で、大政に参与し、奏上、伝宣の役を務めた。右大臣の次に位する。(三)醍醐源氏、権大納言源俊賢の次男。『後拾遺集』以下の作者。正二位、権大納言、太皇太后宮大夫。承保四年（一〇七七）没。七十四歳。(四)源高明。醍醐天皇の皇子。醍醐源氏の祖。正二位、左大臣、左大将。西宮左大臣と号す。安和の変に座して太宰権帥に左遷、天禄三年（九七二）帰京。『西宮記』の著者。天元三年（九八〇）（一説に天元五年）没。六十九歳。(五)源高明の三男。右兵衛督、

平等院